

IMF世界経済見通し—米国景気の減速感が強まるのは2023年

作成日 2018年4月20日

「世界経済は今年、7年ぶり高成長」「米国景気の過熱感は2020年から和らぐ」とIMFはみています。

- IMF（国際通貨基金）は世界の経済成長率見通し（4月17日公表）で、7年ぶりの高成長となる2018年予測（3.9%）を据え置きました（図表1参照）。先進国、とりわけ米国については、向こう2年間、力強い（潜在成長率を上回るという意味で）過熱気味の景気拡大を見込んでいます。その先は、2020年から景気過熱感が和らぎはじめ、2023年には景気減速感が強まっている、とIMFは予測しています。
- 今回のIMF公表文タイトルは「景気拡大が加速、今こそ持続性を高める政策を」（仮訳）です（図表2参照）。「好景気の間にはしっかり構造改革して潜在成長率を高め、好景気を長続きさせるべき」と各国に訴えています。
- これらIMFが示す市場環境見通しに基づけば、「向こう3~4年は、株価の上下動を伴いつつも、世界的な株高傾向が持続する」と期待できそうです。

【図表1】主要国の経済成長率(IMF予測値、前年比%)

	2016年	2017年	2018年(予測値) [3カ月前予測値からの変化幅]	2019年(予測値) [3カ月前予測値からの変化幅]
世界	3.2	3.8	3.9 [修正なし]	3.9 [修正なし]
日本	0.9	1.7	1.2 [修正なし]	0.9 [修正なし]
米国	1.5	2.3	2.9 [+0.2上方修正]	2.7 [+0.2上方修正]
ユーロ圏	1.8	2.3	2.4 [+0.2上方修正]	2.0 [修正なし]
豪州	2.6	2.3	3.0 [+0.1上方修正] ^(注1)	3.1 [+0.1上方修正] ^(注1)
カナダ	1.4	3.0	2.1 [▲0.2下方修正]	2.0 [修正なし]
新興国 ^(注2)	4.4	4.8	4.9 [修正なし]	5.1 [+0.1上方修正]
中国	6.7	6.9	6.6 [修正なし]	6.4 [修正なし]
インド	7.1	6.7	7.4 [修正なし]	7.8 [修正なし]
南アフリカ	0.6	1.3	1.5 [+0.6上方修正]	1.7 [+0.8上方修正]

注1：6カ月前予測値からの変化幅

注2：新興国はIMFが公表した日本語版では「新興市場国と発展途上国」

出所：IMFデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

向こう2年間、上ぶれ/下ぶれリスクは釣り合う

- IMFは3カ月前に上方修正した2018年世界経済成長率（予測値）を据え置きました（昨年10月時点3.7%→今年1月時点及び今回3.9%）。当時、上方修正の理由は「トランプ減税による景気刺激効果が波及するため」等でした。
- 米国については今回、3カ月前と比べ、予測を上方修正しました（1月時点2.7%→今回2.9%）。トランプ減税の景気刺激効果は、当初の想定以上に強力なようです。
- これらメイン・シナリオが上ぶれ/下ぶれするリスクにつきIMFは「向こう2年間は、釣り合っている」と判断しました。

さらに先の2020年以降は、下ぶれリスクが増大

- 2020年から先は「下ぶれリスクの方が大きくなる」とIMFは判断しました。下ぶれリスク要因には「(FRBが先行き景気の強さを予見できず、慌てて)急激な利上げを迫られ(景気の腰を折る事態)」を第一に挙げています。上ぶれリスク要因は「トランプ減税での景気過熱」を挙げました。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における筆者の個人的見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

【図表2】IMF公表文タイトルの変遷

公表時点	タイトル(仮訳、注)
2014年4月	景気回復は鮮明になるも、国毎に異なる回復ペース (Recovery Strengthens, Remains Uneven)
2015年4月	国毎に異なる回復ペース—短期/長期要因にも差 (Uneven Growth, Short- and Long-Term Factors)
2016年4月	景気回復ペースは遅く、低迷は長期化も (Too Slow for Too Long)
2017年4月	景気回復は加速しつつあるか? (Gaining Momentum?)
2018年4月	景気拡大が加速、今こそ持続性を高める政策を (Cyclical Upswing, Structural Change)

注：タイトルは仮訳であり、IMFが公表した日本語版とは一致していない
出所：IMF公表文をもとに明治安田アセットマネジメント作成

筆者：チーフストラテジスト 杉山 修司
東京大学経済学部卒、ロンドン大学LSE修士
日本銀行調査統計局、為替課勤務のち、格付会社S&P、ドイチェ・アセット・マネジメントを経て、2016年から現職